共生の時代

みどりの地球を
みどりのままで
2018 3月

■発行：グリーンコープ共同体理事会
■編集：共生の時代・編集部
■〒812-8561
福岡市博多区博多駅前一丁目5番1号
博多大博通ビルディング3階
TEL092（481）7923
FAX092（481）7876
http://www.greencoop.or.jp/

Contents

東日本大震災から七年
グリーンコープは
これからも復興への歩みに
寄り添い続けます　2・3

脱原発を実現するために
グリーンコープでんきを
広げよう　4・5
2月3日決起集会
全国ご当地エネルギー協会の
水俣薄原太陽光発電所竣工

2017年度
平和学習会　6

グリーンコープの輪・和・環
グリーンコープやまぐち生協
沖村 惠子さん　7

別紙にて、「放射能汚染と向きあう（放射能測定室より）」を掲載

チェック！
詳しくは51号配布チラシをみてね！

東日本大震災、熊本地震、九州北部豪雨の被災地の皆さんと、これからも共に歩んでいきます。今年も復興支援募金にご協力をお願いします。

受付期間
3月5日（月）～3月17日（土）

30th Anniversary　ありがとう これからも
Greencoop

グリーンコープ30周年記念TVCM

自然の精たちと少年の物語がはじまりました

グリーンコープの世界観を15秒間につめ込んで

グリーンコープ30周年を記念し、新しいテレビコマーシャル※が一部の単協エリアからスタートしました。そのテーマは、「自然と人の共生」。グリーンコープの「ホシ」に住む自然の精たちと少年の出会いから物語がはじまります。

日本アニメーション界屈指の制作陣が、細部にまでこだわった繊細な表現で、グリーンコープを優しく伝えます。

制作に携わる3人の方にお話を伺いました。

※グリーンコープのホームページでもご覧になれます

©AY

第1弾CM「雨上がり」篇の1場面
ある雨の日、少年は学校からの帰り道に、生垣の葉っぱのかげにいる小さな存在に気が付きました。近寄ってよくよく見ると…。

プロデューサー・コンセプトデザイナー
釘宮 陽一郎さん

1961年生まれ。神奈川県出身。ゲームメーカーで数々のプロモーション、CM作品を手掛ける。独立後、アニメーション企画制作会社 トラッシュスタジオを立ち上げる。現在、「コクリコ坂から」以降のスタジオジブリ作品で、監督・プロデューサーのサポートなどの制作業務に関わりながら、トラッシュスタジオで、アニメーションを生かしたオリジナルCMを多数制作している「足の草鞋のプロデューサー。

今回CMの制作を依頼いただき、早速グリーンコープのホームページを観て「『自然と人の共生』っていいなぁ」と思いました。グリーンコープでは、子どもたちも混じって米作りを体験する取り組みもあるそうですね。農薬を使わない田んぼならたくさんの虫がいるのでは。田植えや草取りでは稲や水の中に隠れた小さな虫が飛び出してきて、触れる機会もあるでしょう。そういう自然とのかかわりの中で、小さな生き物にも目を向ける感性や自然を大切にする心も育つのではないかなと思います。グリーンコープの、今ある自然を守っていこうという考えに共感し、「自然と人の共生」というテーマならきっと良いCMが作れるだろうと考え、早速アニメーター※の山下明彦さんに話をしました。

山下さんは皆さんご存知のアニメーション映画をたくさん手掛けている、ピカイチの腕と溢れるばかりのアイデアの持ち主です。私は自然を象徴するようなキャラクターを1体考えてほしいとお願いしました。すると、「できたよ～」と送られてきたのが、たくさんの自然の精たち。どれを選ぼうかと悩むうちに、この妖精たちはみんな緑の地球に暮らす仲間で、それぞれの精が自然を象徴しているというイメージが浮かび、インスピレーションで「緑」「花」「土」「水」…と名付けました。

皆さんに観ていただくのはたった15秒ですが、グリーンコープの「ホシ」はどこかに本当に存在していて、そこでは人間と自然の精たちが日々かかわりながら暮らしていて、その日常の一場面が切り取られてCMになっていると感じてもらえるようにスタッフ総動員で知恵を絞っています。

自然の精たちもこれからだんだんと登場します。ご期待ください。

©AY

©AY

※山下明彦さん
1966年生まれ。岡山県出身。30周年キャンペーンのキャラクターデザインを開発。今回のTVCM監督。幼少の頃、TVの海外アニメーションの動きに魅せられてアニメータを志す。数々の作品をメインスタッフとして歴任し、スタジオジブリ劇場映画では、アニメーション演出、作画監督として参加。ジブリ美術館の短編映画「ちゅうずもう」では、監督も務めている。同氏の描くやわらかい動きと力感は、観るものを魅了する。主な作品として、「千と千尋の神隠し」原画、「ハウルの動く城」作画監督、「ゲド戦記」アニメーション演出、「借りぐらしのアリエッティ」作画監督など。

撮影監督
藪田 順二さん

1967年生まれ。熊本県出身。美術背景を合成し、画面を加工して、監督や演出の意向に沿いながら絶妙な風合いを作り出す画面作りの職人。スタジオジブリの撮影部で、「耳をすませば」以降のほとんどのジブリ作品に参加する。

人物を描く人、色を塗る人、背景を描く人などがいて、それぞれの人が生み出したものを預かって一つの映像にしていく仕事をしています。最終的な画面のイメージがここで決まるので、良いものに仕上げるために、みんなでギリギリまで意見交換をします。

観る人に何を訴えるのかで間の取り方も変わります。物語の奥に込められた、観る人に伝えたいメッセージをどのように形にしていくか、スタッフみんなの力で作り上げていきます。

音楽プロデューサー
古城 環（たまき）さん

1976年生まれ。東京都出身。1993年にスタジオジブリ入社、撮影部に所属。その後、編集や音響制作に従事するようになり「コクリコ坂から」以降の作品では制作現場全体の統括を担当している。「かぐや姫の物語」では、石上中納言として声優も担当。

映像と同様に作品のイメージを左右するのが音楽です。「自然と人の共生」という今回のテーマを音楽でも感じていただけるように、ちゃんと楽器を演奏してデジタルでは出せない優しい音にしようと考えました。第一弾はギターの生演奏です。映像の雰囲気を大切に、演奏チームと協力して音づくりをしています。

15秒は短いので、音楽での表現は限られてしまうのが難しいところですが、ワンフレーズで印象に残るような柔らかく心に響くメロディーをお届けしていきます。

©AY